

活躍する竹高卒業生

先輩から元気をもらい地域の学校“竹高”の良さを再発見できました

長崎大学熱帯医学研究所 国際保健学分野主任

山本 太郎

Profile

昭和 57 年竹原高校卒業、竹原市生まれ。忠海中学校を卒業後、竹原高校へ入学。平成 2 年長崎大学医学部卒業。京都大学大学院医学研究科助教授、外務省国際協力局勤務を経て、平成 19 年より現職。アフリカ、ハイチなどで感染症対策に従事。著書に『抗生物質と人間』『新型インフルエンザ 世界がふるえる日』『感染症と文明』など。

山本太郎先生。大学での講義の様子 ▶



—竹原高校に行って良かったことはありますか？—

そうですね、自分の「根っこ」があるというか。生まれ育った町の、そこにある学校へ行って…。世の中へ出るまでの間を、まるで「母親の胎内にいるような穏やかな環境で過ごせた」という幸せを感じることができました。竹高は、そんな穏やかさを備えていました。

—高校の時の将来の夢は何ですか？—

自分が何者で、何になりたいのかな、なれるのか、そんなことは全く分からない時期でした。それは大学を卒業し、研究者の道を歩み始めた時、そして三〇代の後半まで続いたように思います。

●「高校生」時代を大切に

振り返ると、当時感じていたことはずいぶん贅沢だったなという気がします。「無名であること。貧しいこと。若いこと」何かを為すために必要なことだとは誰の言葉だったか。でも、高校時代にはその全てがあったわけですね。何かをなしたか否かは別として。

—後輩へのメッセージ—
頑張ってください！

来てよかった竹高 行かせてよかった竹高 わが町の竹原高校

広島県立竹原高等学校

作成 西岡 慶保（竹原高校 3年）

